第二中

見通しをもち、主体的に学ぶ生徒の育成

～特別支援教育の視点を生かして～

（３年計画の３年次）

校長　　管　　宏

１　研究主題について

昨年度は、「見通しをもち、主体的に学ぶ生徒の育成」を研究主題、副題として「特別支援教育の視点を生かして」のもと、全教職員が「授業のユニバーサルデザイン」の内容を共通理解し、研修・実践を行った。その結果として、どの教科でも安心して授業に臨み、基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けて取り組ませることができた。

昨年度は、グループ学習やペア学習等での話合い活動に積極的に取り組ませることで、個々の意見がグループや学級の中で共有され、理解が深まり、課題解決に向けて主体的に学ぶ生徒が育成されるのではないかと考えた。ところが、コロナ禍で話合い活動を自粛せざるを得ない状況になり、十分に研修を進めることができなかった。そこで今年度は、生徒の一人一台端末を活用しながら、課題解決に向けて主体的に学ぶ生徒の育成を目指したいと考え、研究主題を設定した。

２　研究のねらい

各教科・領域の特性を生かしながら、特別支援教育の視点を生かしながら、一人一台端末の活用を取り入れた授業を実践することで、主体的に学ぶ生徒の育成につながることを明らかにする。

３　研究仮説

授業における適切な支援を「①見やすい板書・構造化された板書、②ねらいや授業の見通しの明確化、③目で見てわかる手がかりの活用」の三つに絞ることにより、全教職員が共有し、実践することで成果をあげてきた。これまでの取組を継続して、見通しをもった授業の実践研究を続けるとともに、今年度はさらに、デジタル教科書や一人一台端末を活用しながら、学習活動について生徒自らが探究し、互いの考えを伝え合う活動等を取り入れることによって、主体的に学習に取り組む生徒を育成することができる。

４　研究内容

(1)「授業のユニバーサルデザイン」について研修し、具体的な取組について共通理解をする。

(2) 一人一台端末の活用を通した授業実践と、互いの実践について学び合うための授業参観や研究協議を行う。

(3) 生徒理解や授業改善のために、外部講師（八戸学院短期大学野口和也氏）をお招きし、研修する。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月日	授　業　等	全　体　会　等
５月１７日	教育指導課・センター計画訪問 ・校内研究主題の「見通しをもち、主体的に学ぶ生徒の育成」～特別支援教育の視点を生かして～のもと、①見やすい構造化された板書、②ねらいや授業の見通しの明確化、③教材の視覚化等の観点を意識した授業実践	
７月５日～ １６日	・授業参観週間 （共有化） ・話合いがどのように手立てでなされているか。 ・個々の意見が班や学級の中で共有化されているか。 （明確化・焦点化） ・授業のねらいや見通しが明示されているか。 （視覚化） ・目で見てわかる手がかりが掲示されているか。 （その他） ・個別指導のための意図的な机間指導 ・肯定的な評価 ・振り返りシートの活用	
各学期	・ユニバーサルデザインの授業実践 ・授業の原則 10 か条を意識した授業実践とその振り返り ① 趣意説明の原則　⑥ 細分化の原則 ② 一時一事の原則　⑦ 空白禁止の原則 ③ 簡明の原則　⑧ 確認の原則 ④ 全員の原則　⑨ 個別評定の原則 ⑤ 所持物の原則　⑩ 激励の原則	
１０月１３日	・初任者研修　教科研究授業（数学）　授業者　佐藤花純教諭 「比例と反比例」	
１月１９日	・初任者研修　道徳研究授業　授業者　佐藤花純教諭 「夢をあきらめない」―「ねぶた師」北村麻子 〈内容項目 A-(4) 希望と勇気、克己と強い意志〉	
２月１６日	・まとめと次年度の方針	

(2) 一般研修

月日	内容・講師・概要等
４月　２日	校内研修（研究主題について） 「見通しをもち、主体的に学ぶ生徒の育成」 ～特別支援教育の視点を生かして～（３年次計画の３年次）についての共通理解 ・授業のユニバーサルデザインによる授業改善項目の共通理解全体会 ・生徒指導情報交換
５月１７日	校内研修（出前講座） 「指導と評価の一体化について」 講師：八戸市教育委員会教育指導課 副参事（実践グループリーダー）兼主任指導主事　日向端　聖氏 ・学習指導要領について内容構成と考え方を理解。 ・学習評価の意義を確認。 ・上記を踏まえて、今後の取り組む方向性を確認。
７月１５日 ８月　４日 ８月　６日 12 月 23 日	校内研修（スクリーニングと生徒理解） 「特別支援教育の視点での専門家によるスクリーニングと担当教員への指導・助言」 講師：八戸学院大学短期大学部 教授　野口　和也　氏 ・本校全生徒のスクリーニング ・スクリーニングに基づく特別支援を要する生徒についての担当教職への指導・助言 ・指導が困難な生徒、困り感が強い生徒についてのケース会議 ・本校の特別支援教育の体制・方向性について管理職への指導
８月２０日	校内研修（一人一段端末への対応） 「一人一台端末」オンライン研修 講師：八戸市総合教育センター主任指導主事　　大下洋一氏 ・八戸版　ＩＣＴの学びへの共有（考えの共有・meet） ・授業での活用事例　Jamboard，スプレッドシート、ドライブの共有

６　研究の成果

(1) 授業のユニバーサルデザイン

今年度は、校内研究主題「見通しをもち、主体的に学ぶ生徒の育成」～特別支援教育の視点を生かして～」の３年次として授業実践に取り組んだ。教師、生徒ともに見通しをもった授業の実践、主体的に学ぶ姿勢を向上させるために問い・学習課題の設定、終末での振り返り・指導と評価の一

体化の実施に力を入れた。現在、ほとんどの授業で、デジタル教科書、ICT 機器を使っており、授業のユニバーサルデザイン化も進んだ。

(2) 一人一台端末の活用を通した授業実践

出前講座「指導と評価の一体化」、オンライン研修「一人一台端末研修」で学んだ事を踏まえ、全教職員が校内研究主題を意識し、授業実践に取り組むことができた。

また、夏休み中にオンライン授業への対応のための研修を実施したところ、時をおかず 8 月下旬の急激な感染拡大に伴い実践の必要に迫られ、急速に教職員の意識・技能が高まった。Meet での授業配信や動画投稿の課題などを行った。生徒会執行部による全校アンケートにも使用され、効果的なタブレット活用の可能性が確認できた。

(3) 特別支援教育の視点を生かした生徒理解や授業改善

スクリーニングやケース会議等を通して、教職員が特別支援教育についての視点を獲得し、生徒理解が深まったことにより、生徒の不適切行動が減り、学習に対する意欲、集団への適応が徐徐に見られるようになってきた。

7　研究の課題

(1) 学習指導要領と学習評価について、まだ各教科の改善が十分ではないと感じている。授業作り、定期考査を含めた評価、家庭学習など、指導と評価の一体化に向けて、見直していかなければならない点が挙げられる。

(2) Chromebook の使い方に詳しい教員に、質問などが集まりがちであり、負担が増える傾向がある。また、教室で活用したいと思う教員の中には、予期せぬハプニング等に対応できる自信がないなどの理由で、積極的に使用しない現状がある。

(3) 一人一台端末使用に関わる約束事や、端末の管理の仕方について、教員間で充分に共有、確認ができないまま使い出したので、教員の間で疑問や心配の声があがった。

（記入者　大越宏子）